



—東地中海地域ニュース—

シリア：エジプト情勢に関する反応

(1月30日付サウラ紙、2月3日付ワタン紙他現地報道)

チュニジアとエジプトでの政変の波紋が、他のアラブ諸国に波及するかが注目されている。シリアは、その波紋は自国にはまったく及ばないとの自信を表明している。

1. 過去数日、現地政府系新聞は社説において、エジプト情勢について扱っている。要旨は以下のとおり。

(1) 「カイロの今日」(1月30日付サウラ紙)

我々はイスラエルを含む西欧諸国の懸念や観測、エジプト情勢をフォローする者たちの声を耳にした。我々が耳にしたのは忠告だけでなく数々の要求であった。オバマ米大統領や他の西側諸国の首脳の言葉には中傷や嫌疑が、そして外交の言葉では隠しきれない政治的指令があった。

(2) 「現在の情勢における国家的・民族的議論」(1月31日付バアス紙)

エジプトやチュニジアで起きていることは、生活水準向上の要求という一面があるのは間違いない。しかし、その根幹には、米国を背景としたエジプトへのイスラエルの影響力に対する国家アイデンティティーの実現という理由がある。

(3) 「シオニストの懸念と米国の失敗」(2月1日付バアス紙)

シオニストはエジプトの体制が変わることによってキャンプデービット合意が取り消されることを懸念している。シオニストを背景に持つ米国にとってもエジプト情勢は関心事項であり、エジプトは今や米国の関心の中心である。両国はエジプトで起こっていることにハッピーエンドを望んでいない。

(4) 「「変革なし」勢力」(2月2日付サウラ紙)

イスラエルや米国といった「変革なし」勢力は、特に政治面において現在と同じ立場を取る体制の再構築を求めている。しかしこれは、イスラエルおよび米国が必ずしもエジプト大統領の続投を求めているわけではない。真の変革の機会が存在するためには、シオニストの米国がエジプトの意思決定から去らなければならない。

2. 2月3日付現地独立系ワタン紙は、フェイスブック上に掲載されているデモの呼びかけに対する若者の反応などについて報じている。

(1) 若者によるバッシャール大統領に対する支持表明

2日夜ダマスカスでは、シリア国旗、バッシャール大統領の写真を掲げた車が走り回った。

メッセ地区の大通り（オートストラード）、ムハーファザ広場、ウマイヤド広場、マーリキ一広場、カッサア地区などの様々な地区で、若者が運転する車が巡回した。

この行動に参加した一人はワタン紙に対し、交流サイトを通じて破壊行為をよびかける挑発への対抗が、彼や一部の若者が参加した理由であるとして次のように述べた。

- (a) シリアに混乱を広めることを呼びかけているネット上の破壊者たちが我々を挑発したので、我々は全世界に対し、我々の国家に対する愛の大きさを示すために通りに出ることにした。今までになく、今後は出て来ようのないこのようなシリアに害を与えようとする呼びかけに我々は注意を払わない。なぜならほとんどの人々は、我々の国家とその安定を熱望しているからである。
- (b) 我々はこのような破壊的グループの存在を許さない。もし見つけたら誰か止めてくれる者を待つのではなく、自分たちで彼らを止める。

(2) 現地で流布している SMS

ワタン紙は1日から出回っている SMS の内容を次のとおり報じている。

- (a) 諸国民がその大統領を変えるために自らを焼いているが、われらの指導者であるバッシャール大統領を守るために、我々は世界を、自分たち自身を、自分たちの子どもたちを焼くだろう。
- (b) 後退や屈服はしない。国家の指導者よ、誇り高く、尊い、自由の主よ、あなたとともにある。大統領に対する国民の愛情をこの国の敵たちが理解するように、このメッセージが広まることを心から願う。

(3) フェイスブック

- (a) 2月4日（金）の怒りの日を訴える匿名グループによる呼びかけは依然としてネット上に存在する。フェイスブック上では、シリアを支持し、破壊的なページや暴動扇動者に反対する愛国的グループも依然として存在し、数千のシリア人がシリア国旗やバッシャール大統領の写真を交換している。同グループのページは数百ページに及び、その参加者数は数万人に上っている。
- (b) シリア人の多くは、シリア内の暴動を煽っている人々の正体を解明しており、その一部がイスラエル人、または長年シリア国外で生活している人たちや、レバノン国内からであることが明らかにされた。
- (c) フェイスブックはシリア国内では禁止されているが、シリアで広まっている破壊の扇動や呼びかけに対し、より多くのネットユーザーによって対抗するため、規制の廃止を呼びかける訴えがここ数日間で現れている。